

カップリング・インターンシップ(CIS)2025 活動報告(ベトナム)

グローバルダイバーシティ&インクルージョン推進室

准教授 勝又 美穂子

9月14日～9月23日(移動含む)の期間、ベトナムにてカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。ベトナムでの実施は2013年のCIS開始以降11回目となり、今回受け入れていただいた IHI Infrastructure Asia(IIA)ではコロナ期のオンライン開催2回を含め、9回目のご支援を頂戴しました。

参加学生は、大阪大学から工学研究科2名、外国語学部2名、ハノイ工科大学(HUST)から機械工学部2名、産業経済学部2名の計8名でした。

CIS開始1日目はハノイ工科大学で事前研修を実施し、両大学学生より国紹介、本学学生より日本のものづくり企業の紹介、受け入れ企業の紹介、教員よりコミュニケーションの基礎講義、そしてCIS課題に関するチーム協議などを行いました。9月16日からの4日間はIIAにて、企業紹介、各部署の取り組み、同社が製造する橋梁の製造工程等を学ぶと共に、役割や役職の異なる多くの皆様とのインタビューを行いました。また、実習としては溶接作業やガス切断にも臨みました。更に、現在建設中の現場見学、最近同社事業により開通した橋梁見学も実施しました。

今回CISのテーマとして企業からご提示頂いたのは「特殊鋼構造物の製造業において若者に魅力ある企業にするには?(現状・課題もふまえて)」でした。製造業や重工業への若い人材離れについて、若い世代である学生達だからこそ持てる視点や考えを意識して議論を進めました。各インタビューでお聞きした考えや意見、経験は勿論、実習中に各チームが回収したアンケート

トに基づいて分析、考察し、チームで同テーマに対するキーポイントや問題点、改善案などを検討しました。

9月22日(月)には、ハノイ工科大学接合科学研究所 HUST-UOsaka 内で最終報告会を行い、IIAからは山本社長、田中工場長、ハノイ工科大学からはHanh 溶接学科長他2名、及びCuong 経済・産業経営学科長他1名、オンラインでも当研究所から3名の参加がありました。

学生は2チームに分かれ、若い世代が職業選択の際に重視すること、その点と現状の一致と乖離の考察、同企業や同産業の魅力の整理と若い世代へのアウトリーチの方法など、自分たちの耳で聞き、目で見えて収集した情報に基づきまとめ上げました。参加学生自身からも、重工業についてこれまでの認識が変わった、社会への貢献という大きな魅力を知った等の意見があり、同テーマを通し多くの新たな学びがありました。

CISでは短期間に英語を中心としたチームワークという難易度の高い活動に取り組みます。学生からは「議論でどうしても通じない場面があったが、相手が真摯な態度で聞こう、理解しようという姿勢を曲げなかったのも、苦しくても諦めずにできた、自分もその態度に学んだ」という感想も聞かれました。母語話者がいない言語コミュニケーションでは困難も多くありますが、一つの目的に向かってやり遂げることで、それぞれに多くの学習があったようです。

改めて、温かく受け入れていただきましたIIAの皆様、そして連携頂いたHUSTの皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

(写真次ページに続く)



最終報告会後の集合写真



ガス切断実習の様子



インタビューの様子



企業実習最後に